

令和6年度 長野市観光振興計画の指標達成状況について

1. 本資料の内容

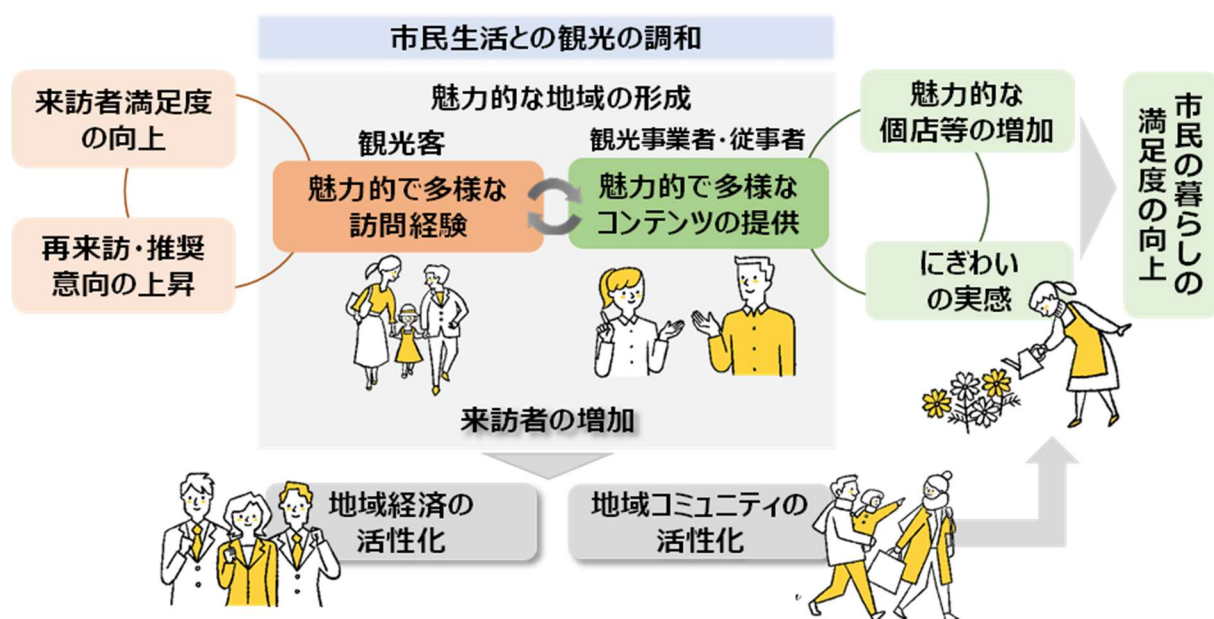
本資料は、「長野市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）」（以下、「観光計画」）の定める指標について、令和6年度における達成状況を整理したものです。

令和6年度は、5年を期間とする観光計画の3年度目にあたり、この達成状況を踏まえて計画期間後半に向けた施策の検討・実施が求められています。

2. 観光計画における指標管理の考え方

（1）計画の目的

観光計画が目指すゴールは、観光消費を増加させ「地域経済の活性化」や「地域コミュニティの活性化」に寄与することです。



（2）指標設定の考え方

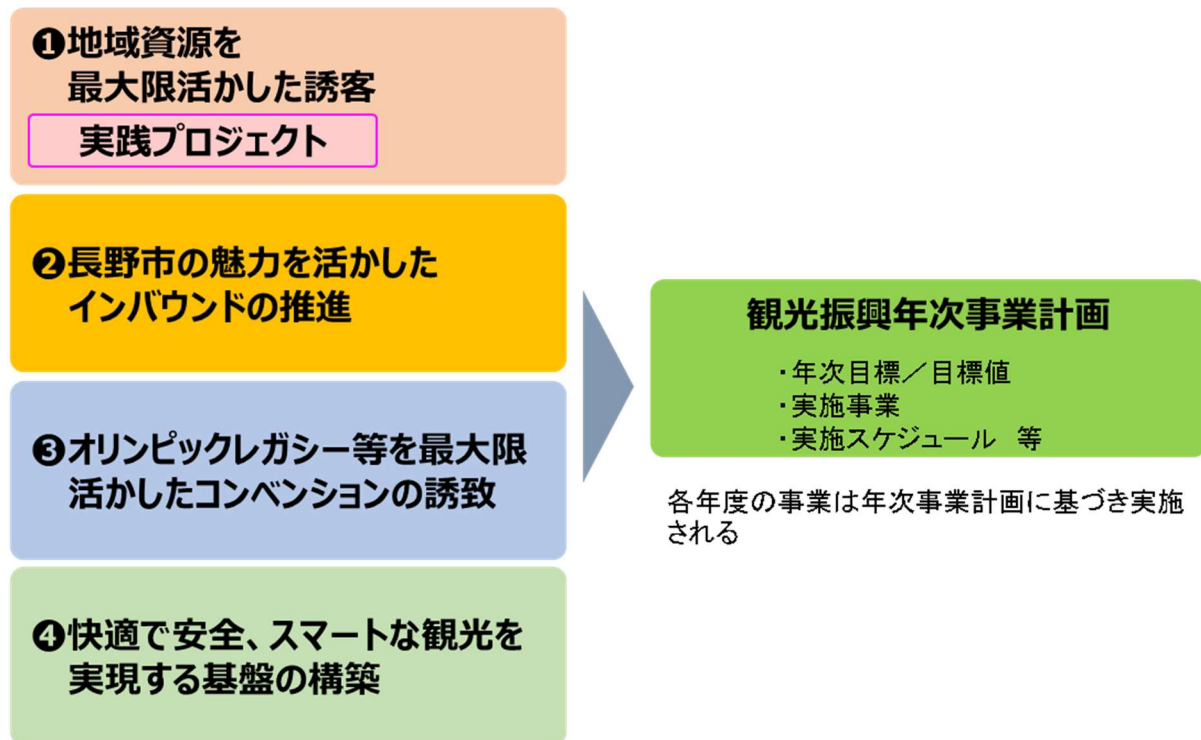
（1）のゴールへの到達度を示すものとして指標を定めています。これは観光関連事業者、ながの観光コンベンションビューロー（以下、「ビューロー」）、各観光協会、市がそれぞれの役割を果たすことで達成されます。

観光関連事業者が良質なモノやサービスを生み出し、それらを観光コンテンツ化することで、人が訪れ、消費が促され、経済が活性化します。観光関連事業者とビューローや各観光協会、市が連携し、取り組むことで、成果指標の達成を目指します。

(3) 指標の管理と計画進捗管理の考え方

計画の進捗管理及び改善は、長野市観光振興審議会において実施します。

政策に関連する指標の評価・検証は毎年度 10 月頃までに実施し、その結果を踏まえ、次年度の年次事業計画の重点目標や事業の実施内容等を検討していきます。



なお年次事業の評価は毎年 3 月頃に実施し、その結果を次年度の年次事業計画に反映させます。

3. 各指標の達成状況

(1) 観光による地域への経済波及額

目標値と実績値（単位：億円）

		基準値 *1	R4 年度 *2	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市全体	目標値	784	1,008 (御開帳)	645	807	823	839
	実績値	-	1,054.2	736.0	972.0		

出典：長野市統計および観光客アンケート調査より算出

*1 基準値は、平成 29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 R4 年度の目標値は、同年に善光寺御開帳があるため、前回御開帳時（平成 27 年）に平常時より増加した分を加えた（宿泊客数は平成 23～26 年の平均値と平成 27 年の差であった 203 万人、入込客数は御開帳参拝客総数であった 707 万人をそれぞれ加えた。経済波及効果はこの 2 つの指標をもとに算出）。

◆目標値の設定方法：一人当たり観光消費額・観光入込客数の伸び率に準じた上昇値を設定。

- 令和 6 年度の経済波及効果は、972.0 億円となった。目標値の 120.4%であり、目標を達成した。算出の根拠となる「入込客数」と「一人当たり消費額」について、前者は一定規模を維持している一方、後者が大きく伸びた（後述）ことから、前年度を大きく上回り、御開帳のあった令和 4 年度に迫る結果となった。
- また、基準値の 784 億円（新型コロナの影響のない平常年とした平成 29～令和元年度の平均値）を上回る結果となっており、コロナ禍前の水準への回復が達成された。

注）経済波及効果の算出方法について

長野県が平成 27 年版産業連関表を基に作成した算出ツール（令和 3 年度公開）を用い、観光客アンケートによって把握した観光消費額および観光入込客数を使って当該年度の経済波及効果を算出しています。

長野県版産業連関表「観光特化版」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/tokei/tyousa/sangyorenkan.html>

(2) 一人当たり観光消費額

目標値と実績値（単位：円）

		基準値 *1	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
全 体	目標値	11,991	12,111	12,231	12,351	12,471	12,591
	実績値	-	17,467	17,730	24,580		
宿泊客 *2	目標値	20,280	20,483	20,686	20,888	21,091	21,294
	実績値	-	29,165	29,280	35,773		
日帰り客 *2	目標値	6,621	6,687	6,753	6,819	6,885	6,952
	実績値	-	7,953	8,601	11,249		

出典：観光客動向把握アンケート調査より算出

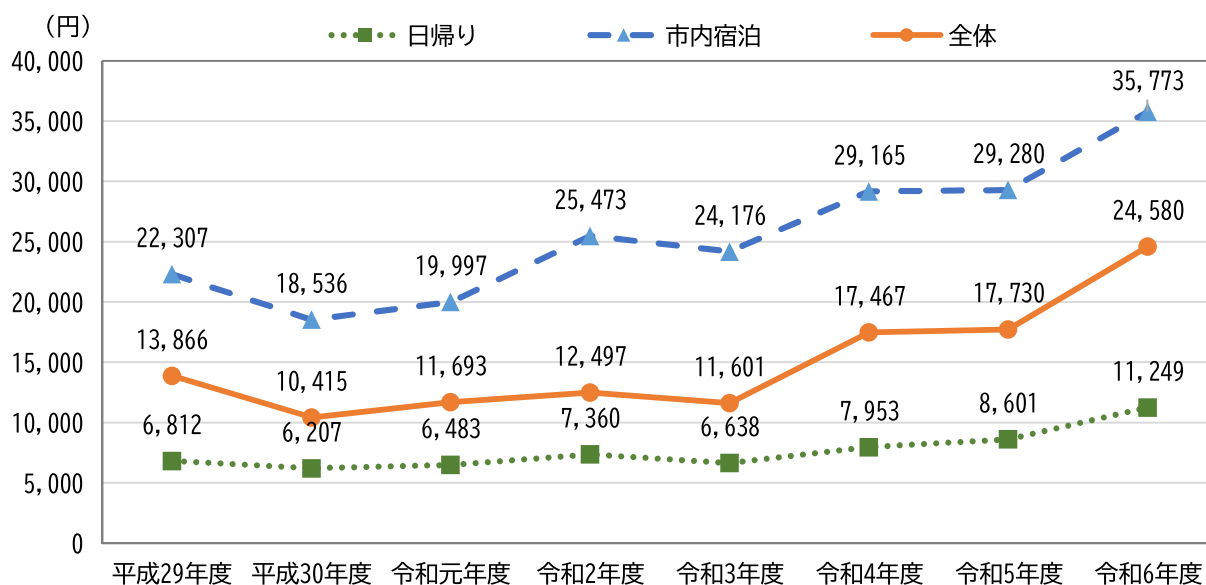
*1 基準値は、平成 29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 宿泊客、日帰り客とは、「長野市内での宿泊」の有無によって区別したものである。長野市外に宿泊する旅行者が市内に立ち寄ったケースは「日帰り客」とみなしていることに注意。

◆目標値の設定方法：基準値（平常年）をベースに最終年度において 5 %上昇するものとして設定。

- ・ 市内来訪者に対する調査結果から算出した、一人当たりの観光消費額（宿泊客および日帰り客を含めた全体）は 24,580 円となった。目標値の 199.0%であり、目標を大きく上回った。
- ・ 内訳を見ると、市内宿泊客は 35,773 円、日帰り客は 11,249 円となっている。
- ・ 経年推移を見ると、コロナ禍が落ち着いた令和 4 年度に市内宿泊・日帰りともに消費額が伸び、令和 5 年度は横ばいで推移したが、令和 6 年度は再び大きく上昇した。令和 5 年度との差は、市内宿泊客が 6,493 円、日帰り客が 2,648 円である。

図表 1 観光消費額の推移



〈参考：消費額の内訳〉

- ・ 日帰り客における、利用率を踏まえた観光消費額の内訳の推移（下段の表）を見ると、すべての費目において、令和５年度より増加している。令和５年度からの増加額が多いのは、「レストラン等で支払った費用」（687円増）、「電車代・高速バス代」（477円増）などである。

図表 2 日帰り客の観光消費額の内訳推移

（単位：円）

	利用率								利用者一人あたりの単価							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
長野ＩＣで支払った高速代	38.1%	46.2%	48.1%	61.9%	55.5%	38.4%	45.0%	38.8%	2,801	3,026	2,599	1,865	1,810	2,056	1,894	2,381
市内で給油したガソリン代	12.9%	17.1%	16.9%	26.1%	21.4%	18.7%	23.2%	24.2%	2,035	3,066	2,642	2,546	2,259	2,551	2,124	3,122
市内での駐車場代	32.1%	33.3%	35.6%	46.6%	40.6%	35.0%	45.5%	39.7%	558	477	432	409	421	458	431	515
市内で支払ったレンタカー代	1.9%	1.5%	1.2%	2.2%	1.4%	3.1%	3.3%	3.1%	3,500	4,234	5,786	5,897	4,833	5,700	6,975	7,957
市内で支払った電車代、高速バス代	10.1%	4.8%	8.4%	4.0%	4.5%	16.7%	13.7%	21.3%	4,613	4,493	5,726	3,008	4,038	3,474	2,844	4,066
市内で支払ったバス・タクシー代	14.5%	10.6%	6.9%	4.8%	7.6%	18.1%	20.1%	23.3%	1,540	1,492	904	2,837	1,283	1,356	1,269	1,540
レストランや居酒屋等、飲食店で支払った費用	75.6%	66.0%	75.5%	78.9%	80.0%	81.8%	83.4%	87.2%	1,965	1,936	1,793	2,040	1,943	2,289	2,407	3,092
コンビニやスーパー等で支払った費用	17.5%	24.6%	33.1%	35.2%	33.5%	36.4%	46.2%	51.0%	893	877	834	912	820	896	863	1,256
宿泊費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
温泉や観光施設への入館料等 そば打ち体験・りんご狩りなどの参加費	28.5%	16.5%	16.5%	29.3%	28.5%	35.9%	35.3%	44.8%	720	952	927	1,065	1,133	1,422	1,155	1,303
お土産代（お菓子、お酒、キーホルダーなど）	63.6%	56.7%	63.1%	72.7%	64.0%	74.2%	75.4%	78.8%	3,917	3,375	3,521	3,448	3,609	3,498	4,119	4,362
その他の品目名	5.2%	7.3%	0.5%	5.6%	8.3%	8.7%	9.6%	22.7%	6,647	1,682	3,500	3,858	2,042	2,512	2,781	2,348

（単位：円）

	利用率（％）×利用者一人あたりの単価(円)								
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R5→R6 増減額
長野ＩＣで支払った高速代	1,067	1,396	1,249	1,154	1,005	789	853	924	71
市内で給油したガソリン代	262	525	446	664	483	476	493	755	261
市内での駐車場代	179	159	154	191	171	160	196	204	8
市内で支払ったレンタカー代	67	65	68	130	68	177	227	249	22
市内で支払った電車代、高速バス代	468	216	483	119	183	582	391	868	477
市内で支払ったバス・タクシー代	224	158	62	137	98	245	255	359	103
レストランや居酒屋等、飲食店で支払った費用	1,486	1,277	1,354	1,609	1,555	1,872	2,008	2,695	687
コンビニやスーパー等で支払った費用	157	216	276	321	275	327	398	641	243
宿泊費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温泉や観光施設への入館料等 そば打ち体験・りんご狩りなどの参加費	205	157	153	312	323	510	407	583	176
お土産代（お菓子、お酒、キーホルダーなど）	2,490	1,914	2,221	2,508	2,309	2,596	3,104	3,437	333
その他の品目名	346	123	18	215	169	220	268	533	265

- ・ 市内宿泊客における、利用率を踏まえた観光消費額の内訳の推移（下段の表）を見ると、すべての品目において令和５年度より増加している。令和５年度からの増加額が多いのは、「宿泊費」（2,644 円増）、「お土産代」（1,029 円増）「レストラン等で支払った費用」（843 円増）などである。

図表 3 市内宿泊客の観光消費額の内訳推移

（単位：円）

	利用率								利用者一人あたりの単価							
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
長野ＩＣで支払った高速代	35.1%	43.0%	54.6%	62.2%	45.8%	31.3%	31.5%	32.2%	3,203	3,369	3,140	2,519	2,300	2,643	2,629	3,305
市内で給油したガソリン代	18.4%	21.7%	29.0%	34.1%	30.8%	20.8%	26.0%	28.3%	2,963	3,466	2,957	2,621	2,390	2,324	2,267	3,171
市内での駐車場代	24.9%	30.4%	36.0%	47.8%	38.7%	25.9%	31.4%	30.1%	715	693	626	689	743	619	582	904
市内で支払ったレンタカー代	4.6%	2.4%	2.7%	6.7%	8.3%	5.5%	7.0%	10.4%	9,479	9,657	10,300	5,356	5,960	5,879	6,280	7,356
市内で支払った電車代、高速バス代	19.7%	8.4%	11.3%	13.0%	16.6%	36.4%	32.4%	33.5%	8,551	5,406	5,924	4,341	4,306	3,766	4,018	4,640
市内で支払ったバス・タクシー代	26.2%	17.1%	17.7%	16.7%	30.4%	40.8%	43.2%	43.4%	1,803	2,277	1,757	2,098	2,090	2,093	2,182	2,525
レストランや居酒屋等、飲食店で支払った費用	78.7%	59.4%	83.6%	90.4%	90.9%	93.4%	95.9%	93.2%	4,274	3,850	2,958	3,753	4,481	5,444	5,466	6,526
コンビニやスーパー等で支払った費用	34.1%	34.6%	48.1%	61.1%	59.3%	67.8%	76.5%	75.1%	1,512	1,303	1,276	1,343	1,209	1,330	1,605	1,722
宿泊費	82.3%	79.4%	89.8%	96.3%	92.9%	94.0%	90.5%	92.7%	11,361	11,442	10,447	12,942	11,736	13,266	13,113	15,649
温泉や観光施設への入館料等 そば打ち体験・りんご狩りなどの参加費	31.8%	32.5%	30.9%	43.7%	37.5%	51.4%	54.8%	59.1%	926	1,599	1,075	1,232	1,598	1,797	1,848	2,165
お土産代（お菓子、お酒、キーホルダーなど）	74.4%	65.4%	76.1%	93.0%	85.8%	92.0%	91.8%	92.6%	5,702	3,741	4,030	4,057	4,240	5,426	5,497	6,558
その他の品目名	4.3%	7.3%	1.6%	7.4%	8.7%	20.8%	17.6%	27.1%	2,663	3,509	4,763	5,780	3,714	3,737	3,420	3,267

（単位：円）

	利用率（％）×利用者一人あたりの単価（円）								
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R5→R6 増減額
長野ＩＣで支払った高速代	1,124	1,449	1,714	1,567	1,055	828	829	1,064	235
市内で給油したガソリン代	544	751	859	893	737	483	589	898	309
市内での駐車場代	178	211	226	329	288	160	183	272	89
市内で支払ったレンタカー代	435	236	277	357	495	321	439	765	326
市内で支払った電車代、高速バス代	1,682	454	669	563	715	1,372	1,303	1,553	249
市内で支払ったバス・タクシー代	473	390	312	350	636	854	942	1,095	152
レストランや居酒屋等、飲食店で支払った費用	3,363	2,288	2,473	3,392	4,074	5,087	5,241	6,084	843
コンビニやスーパー等で支払った費用	516	451	614	821	717	901	1,228	1,293	64
宿泊費	9,350	9,081	9,379	12,463	10,901	12,468	11,867	14,511	2,644
温泉や観光施設への入館料等 そば打ち体験・りんご狩りなどの参加費	295	520	332	539	600	923	1,013	1,280	267
お土産代（お菓子、お酒、キーホルダーなど）	4,244	2,446	3,066	3,772	3,636	4,991	5,044	6,073	1,029
その他の品目名	114	258	77	428	323	776	601	884	284

(3) 市内宿泊者数

目標値と実績値（単位：千人、人）

		基準値 *1	R4 年度 *2	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
総宿泊者数 (千人)	目標値	1,570	1,414	1,390	1,570	1,585	1,601
	実績値	—	1,409	1,624	1,852		
外国人 宿泊者数 (人)	目標値	103,599	50,762	77,181	103,599	104,635	105,671
	実績値	—	46,723	192,815	370,856		

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より推計

*1 基準値は、平成 29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 R4 年度の目標値は、同年に善光寺御開帳があるため、前回御開帳時（平成 27 年）に平常時より増加した分を加えた（宿泊客数は平成 23～26 年の平均値と平成 27 年の差であった 203 万人、入込客数は御開帳参拝客総数であった 707 万人をそれぞれ加えた。経済波及効果はこの 2 つの指標をもとに算出）。※なお外国人宿泊客数については善光寺御開帳を踏まえた補正をしていない。

◆目標値の設定方法：中間年度で基準値に回復、以降最終年度までに 2%上昇するものとして設定。

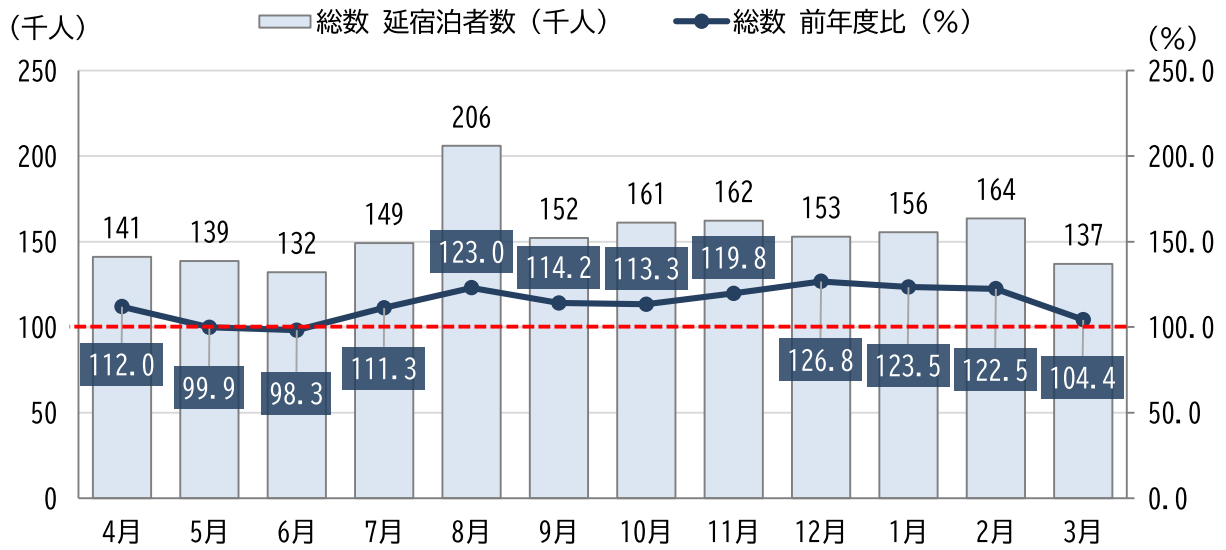
○総宿泊客数

- ・ 観光庁「宿泊旅行統計調査」に基づく令和 6 年度の総宿泊客数推計は 185 万 2 千人となった。目標値に対しては 118.0%であり、目標を達成した。
- ・ 月別に見ると（次ページ）、特に 8 月が突出している。前年度比を見ると、5・6 月でわずかに前年度を下回っているが、それ以外の月では上回っている。

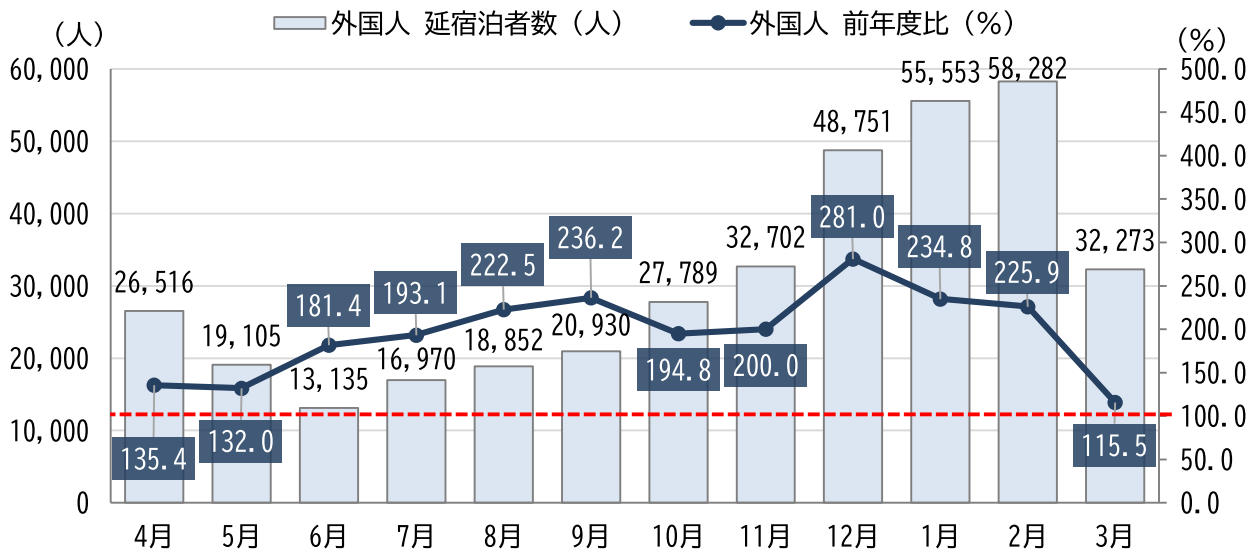
○外国人宿泊客数

- ・ 観光庁「宿泊旅行統計調査」に基づく令和 6 年度の外国人宿泊客数推計は 37 万 856 人となった。目標値に対しては 358.0%であり、大きく目標を上回った。
- ・ 月別に見ると（次ページ）、5 月から翌年 2 月まで宿泊者数が伸び続け、特に 1～2 月にピークとなり、それぞれ 5 万人を超えている。前年度比を見ると、いずれの月でも前年度を上回っている。

図表 4 月別 延宿泊者数（令和6年度）



図表 5 月別 外国人延宿泊者数（令和6年度）



(4) 観光入込客数

目標値と実績値（単位：千人）

		基準値 *1	R4 年度 *2	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市全体	目標値	10,706	13,629	8,632	10,706	10,813	10,920
	実績値	-	13,407	9,308	9,577		
善光寺	目標値	6,436	10,945	5,156	6,436	6,501	6,565
	実績値	-	10,266	6,174	6,228		
戸 隠	目標値	1,482	1,176	1,329	1,482	1,496	1,511
	実績値	-	1,520	1,527	1,674		
松 代	目標値	545	328	436	545	550	556
	実績値	-	485	440	472		

出典：長野市統計

*1 基準値は、平成 29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 R4 年度の目標値は、同年に善光寺御開帳があるため、前回御開帳時（平成 27 年）に平常時より増加した分を加えた（宿泊客数は平成 23～26 年の平均値と平成 27 年の差であった 203 万人、入込客数は御開帳参拝客総数であった 707 万人をそれぞれ加えた。経済波及効果はこの 2 つの指標をもとに算出）。※なお外国人宿泊客数については善光寺御開帳を踏まえた補正をしていない。

◆目標値の設定方法：中間年度で基準値に回復、以降最終年度までに 2 %上昇するものとして設定。

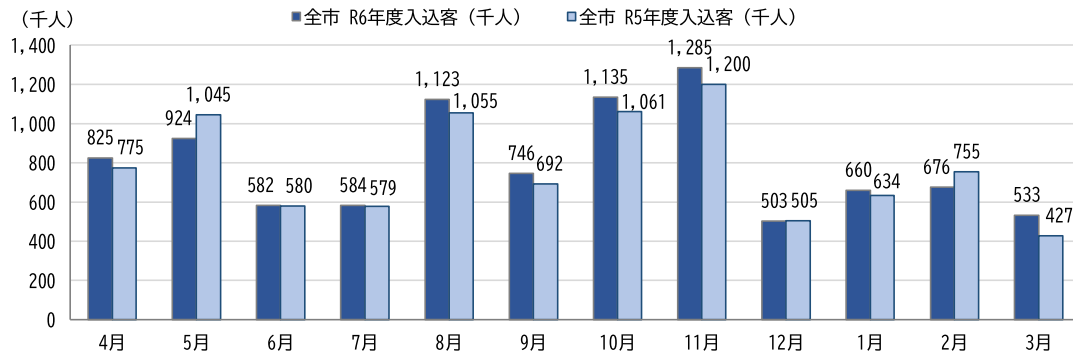
○市全体の観光入込客数

- ・ 市全体の観光入込客数は 957 万 7 千人となった。目標値の 89.5%で、目標に届かなかった。
- ・ 前年（930 万 8 千人）と比べると 102.9%で、微増している。
- ・ 月別に見ると（次ページ参照）、100 万人を超えているのは 8 月、10 月、11 月である。前年と比べて大きな傾向の差はないが、繁忙期と閑散期の差はやや広がっている。

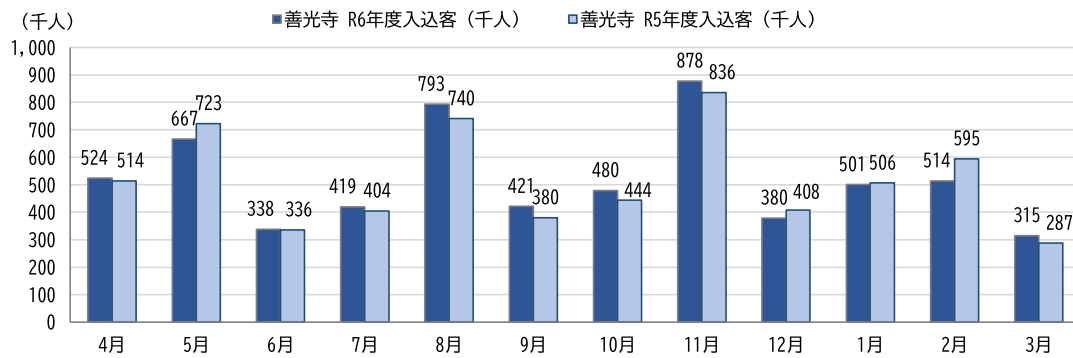
○観光地点別観光延入込客数

- ・ いずれの地点においても入込客数は前年を上回っている。また、前年と比べて、年間の動向の傾向に大きな差はない。
- ・ 善光寺と松代は目標値に届かなかった（達成率：善光寺 96.8%、松代 86.6%）。一方、戸隠は達成率が 113.0%となり目標を達成した。

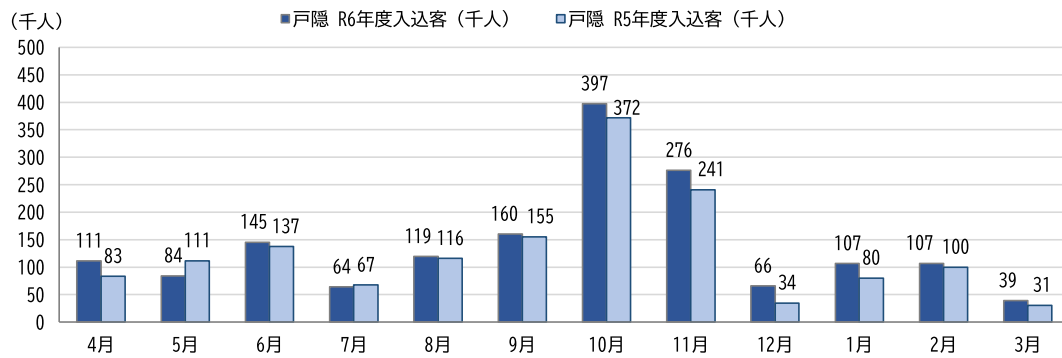
図表 6 市全体 月別 観光地点別観光延入込客数



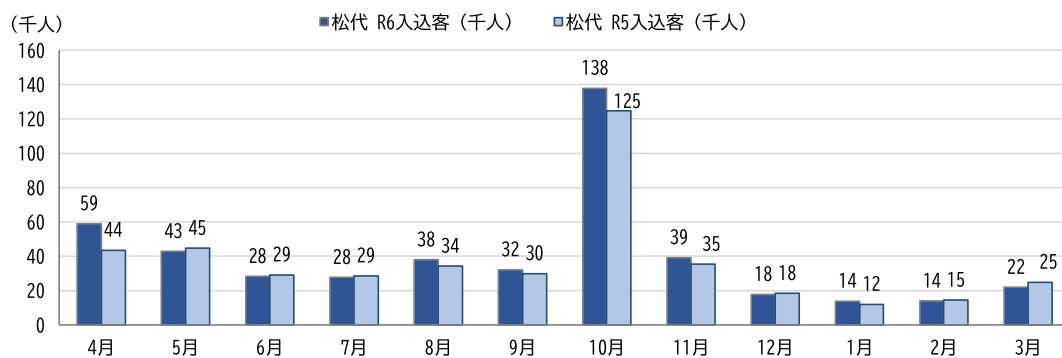
図表 7 善光寺 月別 観光地点別観光延入込客数



図表 8 戸隠 月別 観光地点別観光延入込客数



図表 9 松代 月別 観光地点別観光延入込客数



(5) 満足度

目標値と実績値（単位：％）

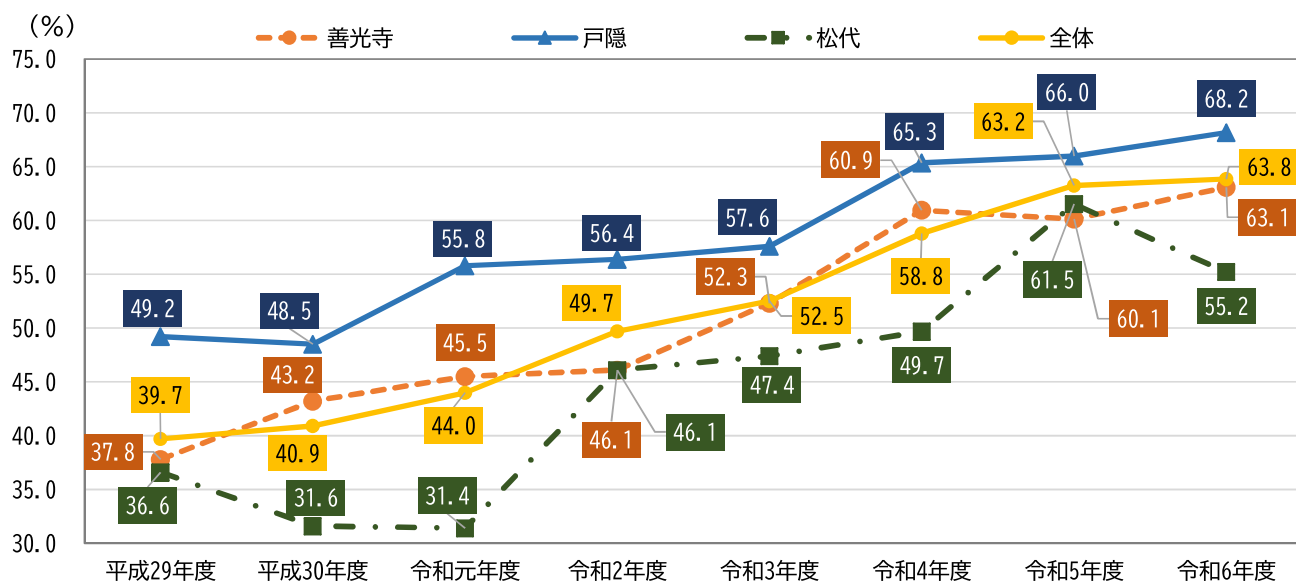
満足度		基準値 (R2 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市全体	目標値	49.7	-	-	-	-	59.7
	実績値	-	58.8	63.2	63.8		
善光寺	目標値	46.1	-	-	-	-	56.1
	実績値	-	60.9	60.1	63.1		
戸 隠	目標値	56.4	-	-	-	-	66.4
	実績値	-	65.3	66.0	68.2		
松 代	目標値	46.1	-	-	-	-	56.1
	実績値	-	49.7	61.5	55.2		

出典：観光客動向把握アンケート調査より算出

◆目標値の設定方法：来訪者調査(R2年度実施)の結果を基準値とし、最終年度までに10ポイント上昇するものとして設定。なお質問項目は、「1. とても満足」「2. まあ満足」「3. やや不満」「4. とても不満」の4項目で、「1. とても満足」の回答割合を満足度として用いている。

- ・ 長野市観光の満足度（アンケート調査で「とても満足」と回答した割合）は、市全体で63.8%となった。基準値（R2年度）を14.1ポイント上回っており、すでにR8年度の目標を超えている。
- ・ 観光地点別に見ると、善光寺で63.1%、戸隠で68.2%、松代で55.2%と、いずれも基準値（R2年度）を上回っている。
- ・ 経年推移を見ると、満足度は平成29年度以降上昇し続けており、令和6年度はこれまでの調査中で最も高くなっている。観光地点別では、前年に比べて善光寺と戸隠はやや増加している一方、松代は、前年度比で10ポイント以上と大きく増加していた令和5年度からは減少となった。

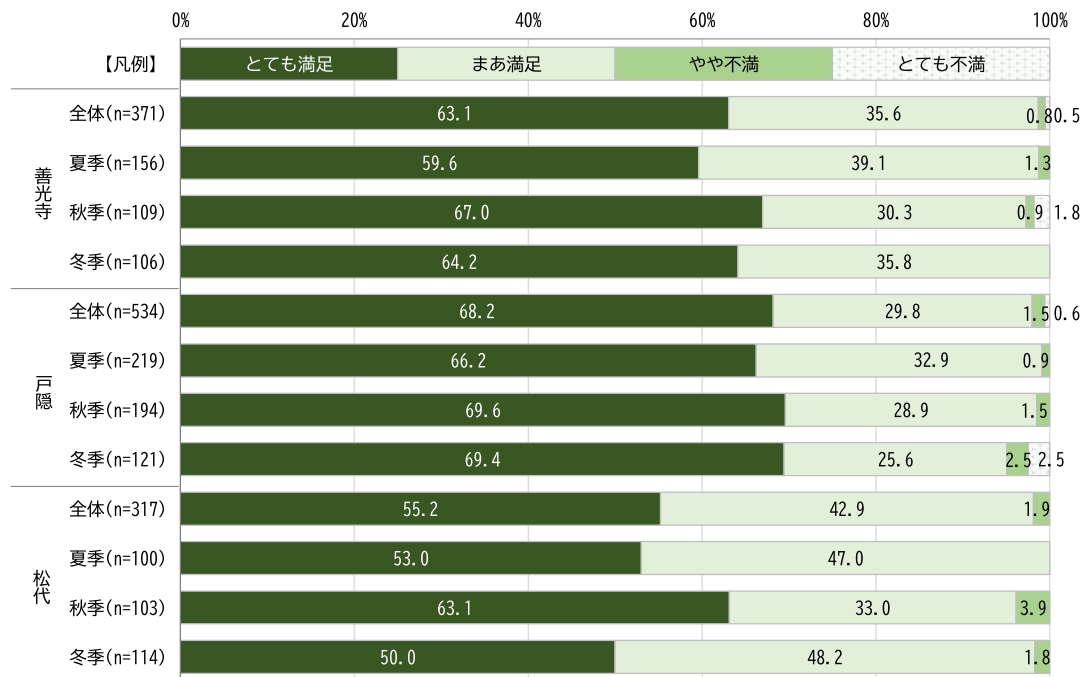
図表 10 満足度の推移



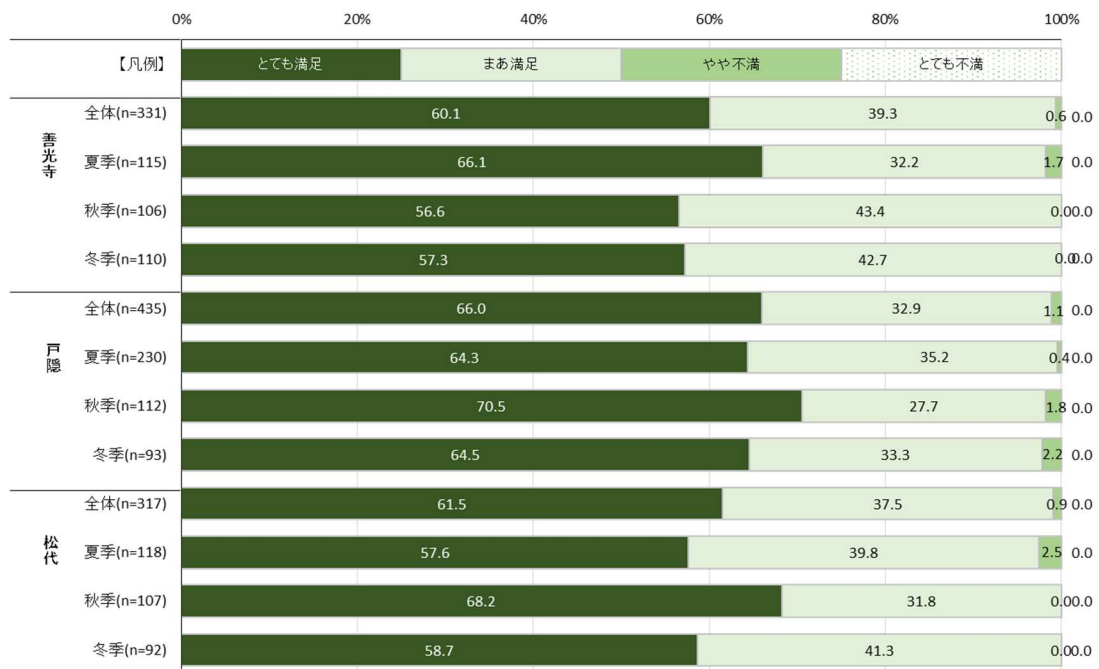
〈満足度の詳細分析〉

- ・ 満足度を調査地点別・季節別に見ると、いずれの地点でも、秋季で「とても満足」の割合が最も高くなっている（善光寺 67.0%、戸隠 69.6%、松代 63.1%）。
- ・ 令和5年度と比較すると、善光寺では、令和5年度は夏季、冬季、秋季の順に「とても満足」の割合が高かったが、令和6年度は秋季、冬季、夏季となっており、傾向に変化が見られる。

図表 11 調査地点別・季節別 長野市観光の全体的な満足度（令和6年度）

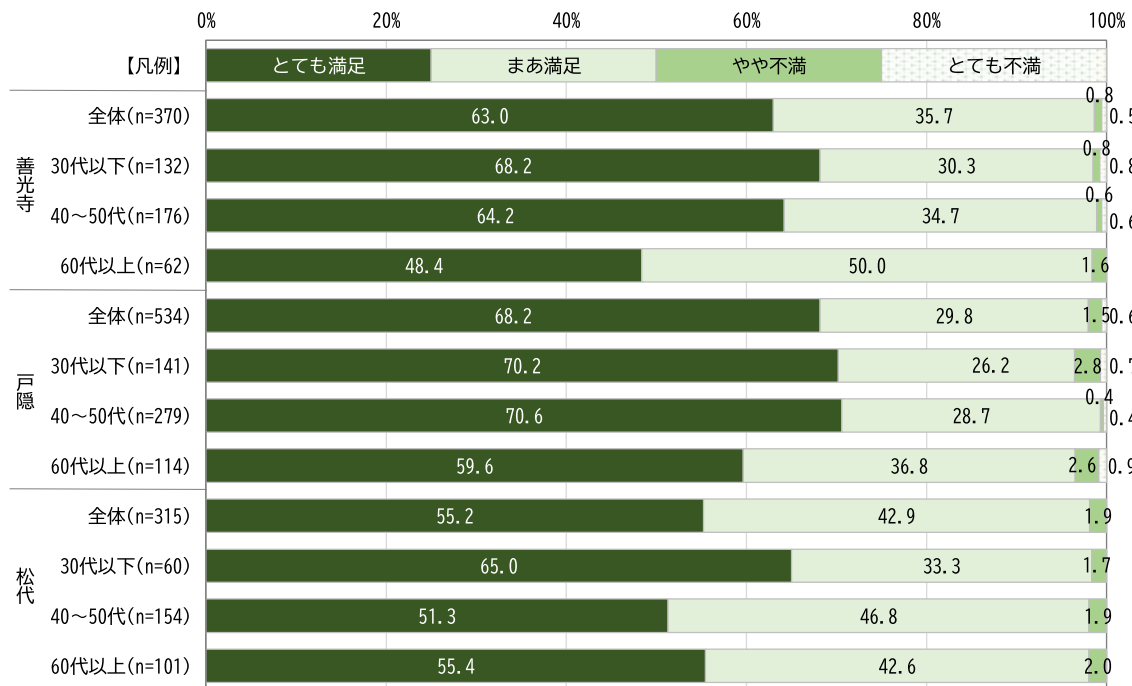


図表 12 【参考】令和5年度 調査地点別・季節別 長野市観光の全体的な満足度

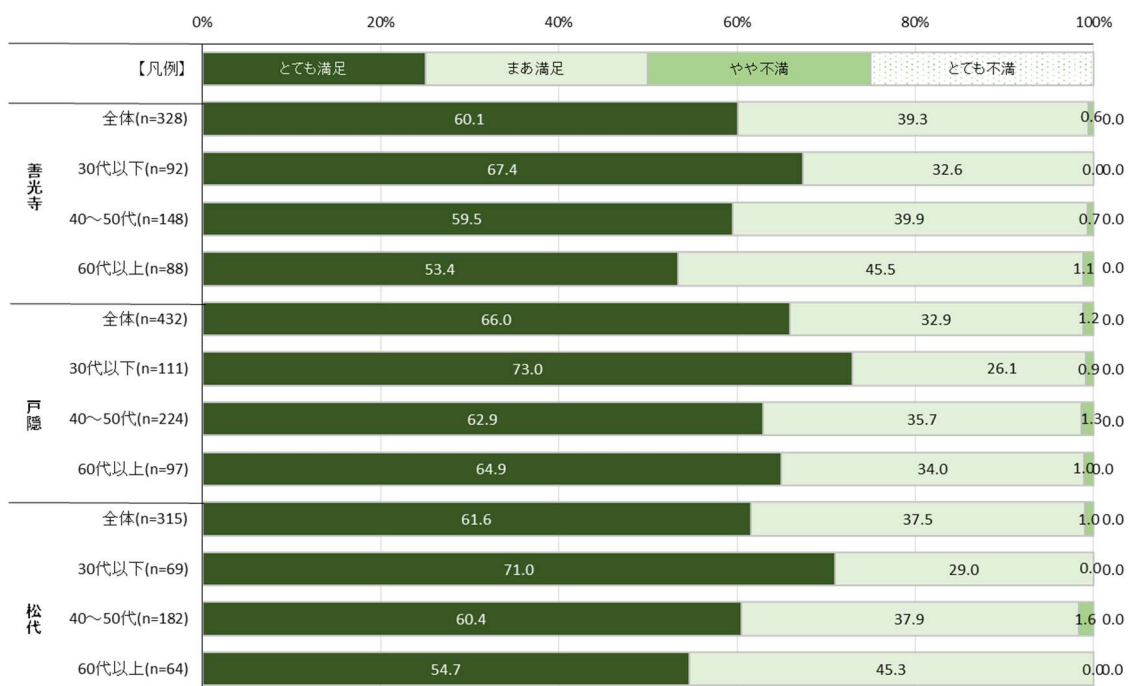


- ・ 満足度を調査地点・年代別に見ると、「とても満足」の割合は、善光寺と松代においては「30代以下」で最も高く、戸隠では「30代以下」と「40～50代」で高くなっている。
- ・ 善光寺と戸隠における「60代以上」で「とても満足」の割合が比較的低く、令和5年度から低下している。

図表 13 調査地点別・年代別 長野市観光の全体的な満足度（令和6年度）

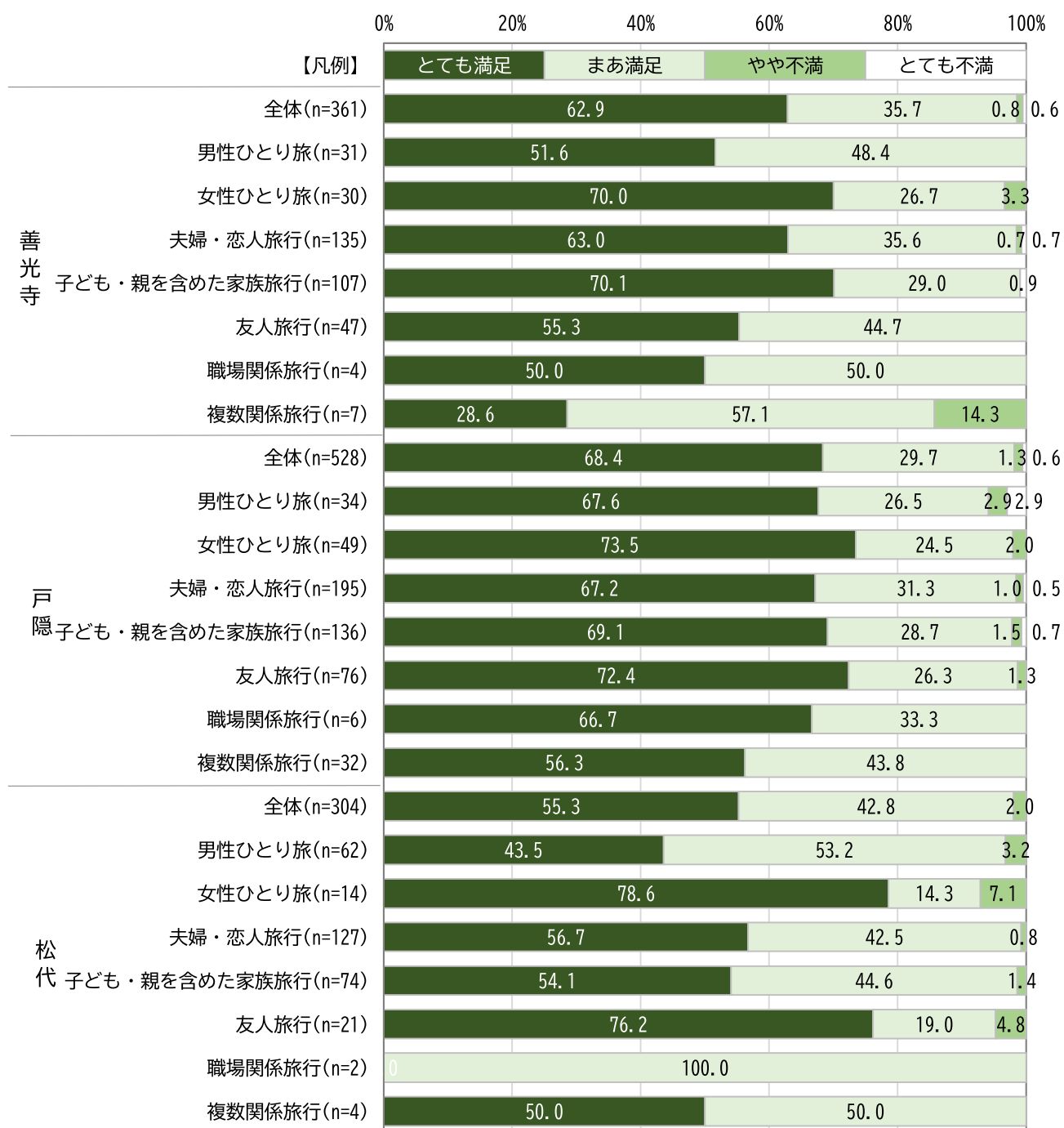


図表 14 【参考】令和5年度 調査地点別・年代別 長野市観光の全体的な満足度



- ・ 満足度を調査地点別・同伴者別に見ると、「とても満足」の割合は、善光寺においては「子どもを含めた家族旅行」や「女性ひとり旅」で高くなっている。戸隠と松代においては、「女性ひとり旅」や「友人旅行」で高くなっている。
- ・ 「やや不満」が比較的高いのは、善光寺の「複数関係旅行」、松代の「女性ひとり旅」である（いずれも母数が小さいため参考値）。

図表 15 調査地点別・同伴者別 長野市観光の全体的な満足度（令和6年度）



(6) リピート率

目標値と実績値（単位：％）

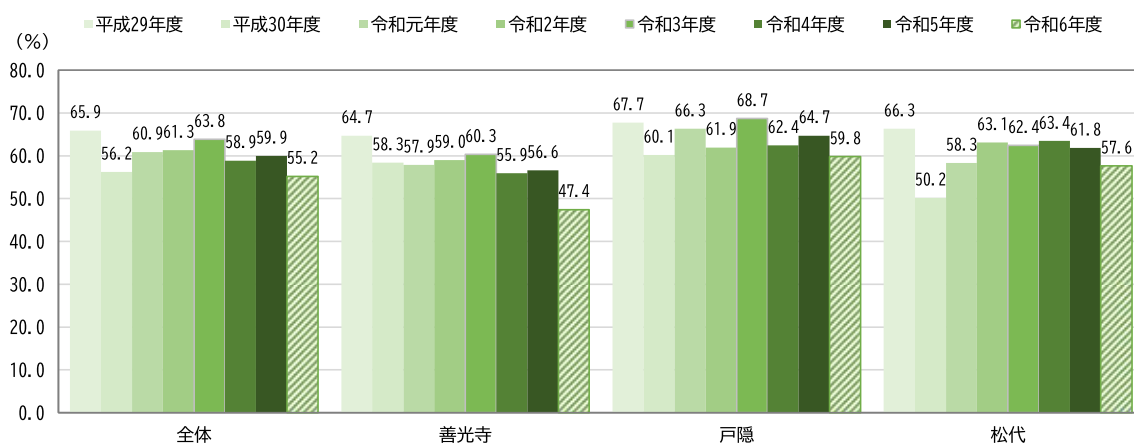
リピート率		基準値 (R2 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市全体	目標値	61.3	-	-	-	-	71.3
	実績値	-	58.9	59.9	55.2		

出典：観光客動向把握アンケート調査より算出

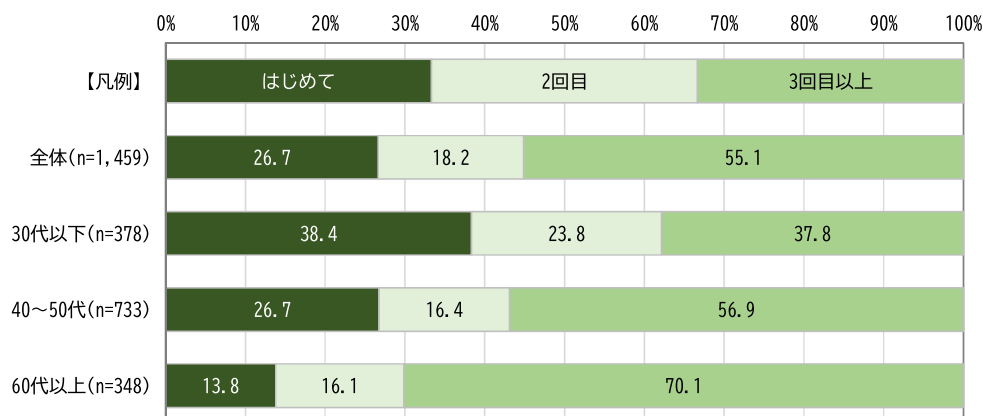
- ◆目標値の設定方法：来訪者調査(R2 年度実施)の結果を基準値とし、最終年度までに 10 ポイント上昇するものとして設定。なお質問では長野市への来訪回数を聞いており、「3 回目以上」の回答者の割合をリピート率として算出している。

- ・ リピート率（アンケート調査で長野市への来訪回数を「3 回目以上」と回答した割合）は 55.2% となった。基準値（R2 年度）を 6.1 ポイント下回り、前年からは 4.7 ポイント低下している。
- ・ 調査地点別に見ると、戸隠と松代で全体より高く、善光寺でやや低くなっている。
- ・ 推移を見ると、全体では平成 30 年度から令和 3 年度まで上昇していたが、コロナ禍が落ち着いた令和 4 年度以降は 6 割を切り、令和 6 年度は全期間中で最も低い 55.2% となった。
- ・ 年代別に見ると、30 代以下で 37.8%、40～50 代で 56.9%、60 代以上で 70.1% と、年代が上がるにつれ高くなっている。

図表 16 調査地点別 リピート率の推移



図表 17 年代別リピート率



(7) コンベンション等参加者

目標値と実績値（単位：人）

		基準値 (R2 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
参加者数	目標値	10,220	-	-	-	-	120,000
	実績値	-	65,867	78,271	78,877		

出典：ながの観光コンベンションビューロー実績値

◆目標値の設定方法：最終年度において12万人を達成する。

- ・ コンベンション等参加者数は7万8,877人となった。前年度からは横ばいで推移している。
- ・ 令和8年度の目標値に対しては65.7%の達成率であることから、誘致・支援施策等の取り組みの強化が求められている。

4. 総括

(1) 指標のまとめ

- ・ 市内宿泊者数は、総数が約 185 万人、外国人が約 37 万人で、ともに前年度を上回っている。特に外国人宿泊客数は、昨年度の約 2 倍、目標値の 3 倍以上と、飛躍的に伸びている。
- ・ 観光入込客数は、全体で約 958 万人と、目標値の 89.5%となった。昨年度と比べると約 27 万人の増加となっており、特に 8・10・11 月の繁忙期で伸びている。地点別に見ると、善光寺と松代では目標値に届かなかったが、戸隠では目標値を達成した。
- ・ 一人あたり観光消費額は、24,580 円で、目標値の 199.0%と、高い水準となっている。費目別で見ると、市内宿泊客では宿泊費などの費目で増加が見られる。
- ・ 満足度は上昇を続けており、市全体では 63.8%が「とても満足」となっている。
- ・ リピート率は 55.2%で低下傾向にある。

(2) 今後求められること

- ・ 入込客数は、目標であるコロナ禍前の平常年の平均値には達しなかったものの、堅調に増加している。ただし繁忙期と閑散期の差が大きいことが依然として課題であり、初夏や冬季などのオフシーズンの誘客につながるコンテンツの充実などの工夫が必要である。
- ・ 宿泊者数はすでにコロナ禍前を上回っており、特にインバウンドの需要が非常に高くなっている。一人あたり観光消費額においても宿泊費が伸びているなど、市内の宿泊市場が活性化している様子がうかがえる。今後は、ニーズをしっかりと受け止められる環境を整備するとともに、長野市の交通利便性を活かした広域周遊の拠点としての機能の強化といった役割も、さらに重要になってくると考えられる。
- ・ リピート率は低下しているが、このことは逆に、来訪が初めての人や 2 回目の人といった新規の来訪者の割合の増加を示しているとも言える。新規来訪者とリピーターでは長野市の観光に期待している内容や実際の行動が異なると考えられることから、それぞれの層が魅力を感じるコンテンツやアクティビティの内容を把握することにより、新規来訪者をさらに広げるとともに、新規来訪者がリピーターとなるような仕掛けを作っていくことが重要である。